

漁業資源対策研究

アカムツの漁獲状況および資源動向

住友寿明・吉見圭一郎・中西達也

近年、全国的にアカムツの需要が高くなっている。アカムツは県南でも重要な漁獲対象であり、漁業関係者は品質や価格の向上を図るための取り組みを行っている。その一方でアカムツの漁獲状況や資源量、資源動向については十分に把握されていない。今後、アカムツ資源を有効かつ持続的に利用するためには、これらの知見が必要である。そこで、海部郡内の標本漁協から得られた漁獲情報をもとに、最近の漁獲量や出漁状況等を調べた。

方法

漁獲集計システムを導入している海部郡内の漁協を標本漁協とした。平成20～27年に延縄で漁獲されたアカムツについて、年別の漁獲量、月別の平均漁獲量、出漁日数およびCPUE (kg/日・隻)をもとめ、漁獲量、資源水準、資源動向および出漁状況を解析した。

結果

平成20～27年の漁獲量を図1に示した。漁獲量は変動が大きく、年間2.1～7.8トンで推移した。主漁期は4～9月だが、平成24年以降は10～12月にまとまった漁獲がみられ、さらに平成25年以降は1～3月にもまとまった漁獲がみられるようになった。平成20～27年の月別平均漁獲量を図2に示した。周年漁獲がみられたが、初夏～夏が漁獲の盛期である。年別の出漁日数とCPUEを図3に示した。平成20～23年は年間出漁日数が20～39日だったが、平成24年以降大幅に増えて、60～80日となった。CPUEは減少傾向にあり、平成27年は平成20～22年の半分程度に落ち込んだ。

考察

本来、アカムツは初夏～夏中心に漁獲されていたが、需要の高まりから周年漁獲されるようになったと考えられる。近年、出漁日数が増えCPUEが減少し、漁獲圧が高くなっている。資源動向は、横ばい～減少傾向にあると考えられる。平成27年の時点で漁獲量の顕著な減少はみられないが、現状の漁獲圧では減少傾向に転じる恐れがある。資源を持続的かつ有効に利用するためにも資源量や資源動向に関する情報を収集し、必要に応じて適切な対策を講じる必要がある。

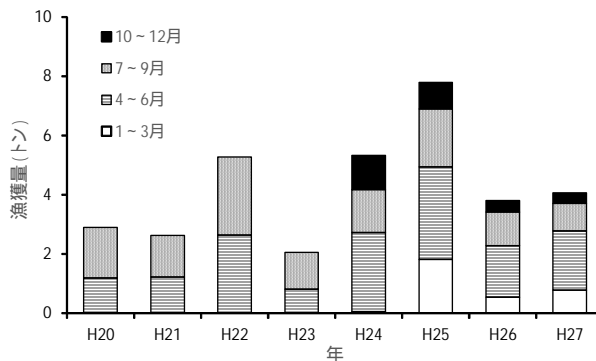


図1. 標本漁協におけるアカムツの年別漁獲量。

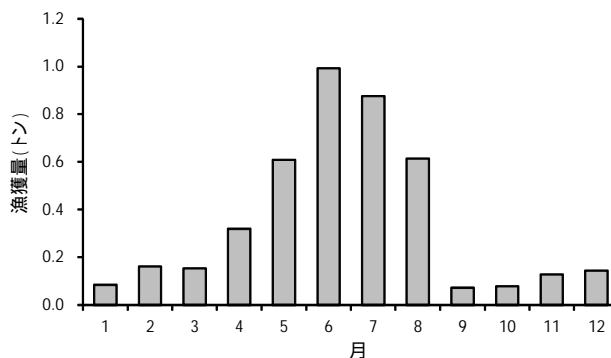


図2. 標本漁協におけるアカムツの月別漁獲量 (平成20～27年平均)。

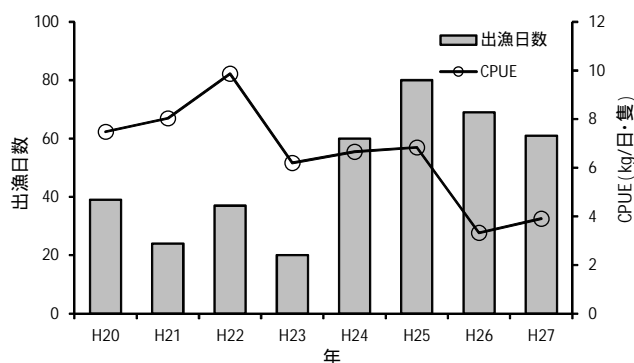


図3. 標本漁協におけるアカムツを漁獲した延縄の出漁日数とCPUE。